

週刊センターニュース No.12



第12号(2004年5月31日)毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

共同学習会の記録ビデオテープについて

以前からご案内しておりますように、共同学習会にご出席いただけなかった方々のために、報告者の了解を得て記録しておりますテープのダビングを行います。ご希望の方は例えば、第19回「企業にとっての共同研究 - 外部資金獲得の方法 - 」と明記して、テープとともに学内便でお送りください。

共同学習会のご案内

第20回 日時: 5月31日(月) 5時限目(16:10~17:40)

場所: 角間キャンパス総合教育棟南棟2階 大会議室

題目: 「聴覚障害者に対する大学における支援について

- 第1回 日本福祉大学の例を紹介 - 」

講師: 青野透 (大学教育開発・支援センター)

第21回 日時: 6月3日(木) 5時限目(16:10~17:40)

場所: 角間キャンパス総合教育棟南棟2階 大会議室

題目: 「学生の主体的な学びに向けて 理学部の取組」

講師: 鎌田啓一 (理学部)

第22回 日時: 6月10日(木) 5時限目(16:10~17:40)

場所: 角間キャンパス総合教育棟南棟2階 大会議室

講師: 瀬領 浩一 (共同研究センター)

題目: 「共同研究提案書作成」

概要: 企業に対する大学の対応をテクノロジーマーケティングという視点から整理します。ポイントは企業の抱えている問題をいかに知り、解決の提案を行っていくかです。これまで企業には、大学で行われていること、大学のできることが今ひとつ見えませんでした。また大学側も、企業から期待される仕事でも、自分の研究テーマに合わない場合、複数の技術の総合であり個人の立場では対応できない場合、あまりにも特定の企業の利益に貢献するような場合は、お断りしてきました。このため大学は「融通がきかない」、「お高くとまっている」と言われて来ました。これからは各大学が企業の課題にあわせて工夫し、大学同士が競争していく時代です。この工夫を整理しお客さんにお渡しするのが提案書です。今回は、プレゼンテーション型の提案書を取り上げ、企業から魅力的なものとして評価されるものにする方法について皆様と考えて見たいと思います。

外部資金獲得と基礎研究～共同学習会から～

5月24日、27日の両日、国立大学法人化に伴う外部資金獲得の動きを共同学習会で取り上げた。24日は、NHKの番組で紹介された福井大学の取組を基に議論した。27日は、本学共同研究センターの瀬領教授にお願いして、加速しつつある共同研究をめぐる国立大学法人と企業双方の事情について解説していただいた。ふと頭をよぎったのは、大学における研究者人口分布のゆがみ、特に基礎研究分野の空洞化への不安である。本学においても動き出している教育改革の取組の効果が、国や企業によ

る特定分野への資金投入によって歪められる危険性をはらんでいると考えるのは心配しすぎであろうか？

福井大学については、教員と企業との共同研究のコーディネーターによって、大学の研究資源を企業に売り込む事例が紹介された。開発した超流動を利用した繊維へのめっき技術を、複数の企業関係者を招いた上で教員自ら売り込んで、共同研究の契約を取り付ける場合もあった。

本学においても、共同研究センターを中心とした企業との共同研究を加速させる動きが進んでいる。理工系ばかりでなく、人文系学部の教員と地方自治体との共同研究も進みつつあるとのことであった。自前の技術確立のために設立された大企業の中央研究所は、近年、投資に見合ったほどの製品開発強化に貢献できず縮小、廃止に追い込まれる傾向にある。大学は、基本技術の供給源として企業から注目されつつある。企業と国立大学法人との利害が一致し、共同研究に拍車がかかる情勢にある。ただ企業によっては、中央研究所を分社化させる場合もあり、分社された研究所は研究、人材育成のマーケットへ進出し、大学にとって強力な競争相手になるとの瀬領教授の分析であった。瀬領教授は、企業が公表する有価証券報告書などに基づいて、企業の研究動向を注視し、大学の研究資源の技術シーズとしての可能性を企業に対して積極的に提案していくことも今後必要であると述べられた。

第2期科学技術基本計画に従い、比較的短期的に技術革新が見込める特定の研究領域への集中的国費投入が続いている。企業や国などの外部からの資金を獲得できる研究分野に学生の目が向くのはごく自然な成り行きかもしれない。さらに深刻と思われるのは、多様な研究分野で育成されてきた人材が、大学院修了後にポスドクとしてプロジェクト領域に吸収されるケースである。外部資金獲得と教育改革とは、人材育成の部分で相容れない問題を抱え込む危険性はないのであろうか？

外部資金獲得、特に企業との共同研究について第2弾として、6月10日の共同学習会で、瀬領教授に再度お話をしていただく予定である。多数の教職員の方々に参加していただき、議論できればと思います。(文責 西山)

角間ランチョンセミナー開催記録(5月24日～5月28日分)

- 2004.5.24 「中国人留学生の目を見た中国と日本」
陸芸娜、買卓(日本語・日本文化研修生)
- 2004.5.25 「留学生によるドラマ発表」
ポセム、朴、宝、ヴィバワリ、ナナ、ティム、メリッサ
- 2004.5.26 「留学のための英語」大藪加奈(外国語教育研究センター)
- 2004.5.27 「スタディーツアーの報告、インド、カンボジア、ベトナム」小林由(法学部4年)
- 2004.5.28 「留学生と友達になろう」金沢大学国際交流・留学生支援グループ「ともだち」

センター教員活動記録(5月24日～5月29日分)

- 2004.5.26 第2回公開研究会“ヨーロッパ高等教育圏”へ向けて - 未来と現実
Towards a “European Higher Education Area”? Visions and Realities? に参加
(広島大学高等教育研究開発センター主催)会場：広島大学
広島大学法科大学院訪問調査 (堀井 公費出張)
- 2004.5.27 京都大学法科大学院訪問調査 (堀井 公費出張)
- 2004.5.28 大阪大学法科大学院訪問調査 (堀井 公費出張)
- 2004.5.29 第40回日本学士院講演会において、難聴学生(理学部数学科)のノートテーカーを担当 (青野)
- 2004.5.29,30 日本教育法学会第34回定期総会に参加 会場：神戸大学
(堀井、早田 公費出張 なお、早田は29日のみ参加)